

優秀賞

ぼくができること

埼玉県 大谷場東小学校 二年 和田崇志

ぼくのすんでいるマンションに、さわ田さんという車いすにのっているおばあさんがいます。

ぼくがようち園のとき、デイサービスからかえってきたさわ田さんと、はじめて会いました。さわ田さんはマンションの中に入ろうとしていました。マンションの出入口がじどうドアではないので、車いすにのっているさわ田さんとかぞくの人がドアをあけて入るのは、すぐたいへんそうに見えました。ぼくは、はじめはじゃまになると思って、立ちどまって見ていました。そのあと、

「ぼくがドアをおさえたらいいんだ。」

と、気がついて、いそいで走って、さわ田さんが中に入る間、ドアをあけておさえてあげました。すると、とてもよろこんで、

「ありがとう。やさしいねえ。」

と、何回も言ってくれました。ぼくは、そんなにかんしゃのことばを言われたのがはじめてだったので、びっくりしたけれど、とてもうれしかったです。ゆう気を出して、ドアをおさえてよかったなと思いました。

なぜドアをおさえようと思ったかという、ときどきぼくもほかの人にドアをおさえてもらっているの、こんどはぼくが、ドアをおさえてあげる人になりたいと思ったからです。

それから、さわ田さんに会ったときは、ドアをおさえてあげています。それからエレベーターにのって話をするのがたのしいです。いつも、さわ田さんがエレベーターをおりるとき、さいごにハイタッチをします。そして、

「さようなら。」

と、二人で言い合います。さわ田さんは、車いすにのっているけれど、声が大きくて元気なおばあさんです。ぼくはいつも、さわ田さんからゆう気と元気をもらいます。

だからぼくは、こうれいしゃだけではなくて、おなじマンションの小さいふたごがいて、そのお母さんがたいへんそうなときにもゆう気を出しました。ぼくは、ふたごたちが何かいにすんでいるかわかるので、エレベーターでそのかいのボタンをおします。そうしたら、ふたごのお母さんが、

「めいわくかけてごめんね。ありがとう。」

と、言ってくれました。ぼくは、もっとゆう気が出ました。ぼくも小さいとき、めいわくをかけていたと思うので、親切でおかえしをしたいです。

ぼくはマンションの人にやさしくして、もっとなかよくなりたいたいです。やさしくすると、しらなかった人と話すことができてたのしいです。思いやりのあるちいきになればいいな、と思います。